



2019年5月14日

各 位

上 場 会 社 名 **株式会社サニックス**  
 代表者役職氏名 代表取締役社長 宗 政 寛  
 (コード番号4651 東証一部・福証)  
 問 い 合 せ 先 取締役常務執行役員  
 企画本部長 兼 管理本部長  
 兼 経営企画部長 井 上 公 三  
 TEL 092-436-8882

棚卸資産評価損の計上、及び2019年3月期連結業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、棚卸資産評価損を計上することといたしました。これにより、2018年11月13日に公表いたしました2019年3月期(2018年4月1日～2019年3月31日)の連結業績予想と実績に差異が生じたためお知らせいたします。

記

### 1. 棚卸資産評価損の計上について

当社は、太陽光発電システムの部材に関する在庫の一部について収益性が低下したと認められることから、棚卸資産評価損152百万円を売上原価(材料費)に計上いたしました。

### 2. 連結業績予想と実績の差異について

(1) 2019年3月期連結業績予想数値の修正(2018年4月1日～2019年3月31日)

(単位:百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	一株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 ( A )	49,434	1,338	1,290	534	11.19円
実 績 ( B )	50,719	1,224	1,182	240	5.02円
増 減 額 ( B - A )	1,285	△113	△107	△294	—
増 減 率 ( % )	2.6	△8.5	△8.3	△55.1	—
(ご参考) 前期実績(2018年3月期)	49,993	1,246	1,019	1,180	24.68円

### (2) 差異の理由

売上高は、SE事業部門において太陽光発電システムの受注の遅れを取戻したことを主因として、業績予想数値を上回りました。

利益面では、上記「1. 棚卸資産評価損の計上について」のとおり、自社製パワーコンディショナに係る棚卸資産の評価損を152百万円計上したことにより、営業利益、及び経常利益は予想数値を下回る結果となりました。また、上記理由の他、中間期に特別損失として計上していた苫小牧発電所の復旧費用について、前回予想時より増額となり追加で特別損失として費用計上したことから、親会社株主に帰属する当期純利益は前回発表の予想数値を下回りました。

※上記の内容を含む決算の詳細については、本日発表しております「2019年3月期決算短信〔日本基準(連結)〕」をご確認ください。

以 上